

下の新聞記事を読んで、問いに答えましょう。

2020年4月11日朝刊

①記事中の口に入る気象の用語をひらがなで書きなさい。

()

②気象条件に影響されやすいミカンの生産では、どのような工夫がされているのか、書きなさい。



2019年シーズンの県内産ミカンの販売が終了した。JA静岡経済連によると、主産地の県西部で11月に発生したひょう被害が大打撃となり、取扱量は前年比3割減と記録的な不作となった。単価も振るわず、全体販売額は過去10年で最低となる見通しだ。

被害打撃で不作

ミカン取扱量3割減

JA19年販売終了



「収穫直前のひょう被害で約半分が出荷できなくなった。自然相手とはいえ、こんなこととは前代未聞だ」。浜松市北区三ヶ日町のふるまき農園で、3月までに出荷予定のミカンを収穫していた農業者は、この被害に驚き、今後の対策を話し合っていた。

経済連によると、3月末までの取扱量は前年最終比27・2%減の3万7127ト、1キロ当たり平均単価は5・5%高(15円高)の286円。全体の販売額は23・2%減の106億1832万円と大幅に落ち込んだ。

19年シーズンは全国的に生産量が少ない裏年だったことに加え、局地的なひょう被害で果実が傷ついたため、出荷できなかったり、価格が下がったりしている。JA静岡経済連によると、2019年の県内産ミカンの取扱量は前年比3割減と記録的な不作となった。

「ミカンは気象条件に影響されやすいだけに、地球温暖化や昨年の台風被害など、毎年のように天候に振り回される事態に、生産現場は危機感を募らせているという。県内では高温に耐性のある品種の育成・普及などにも取り組んでいる最中。同経済連は「来シーズンは、さらに高品質で安定した出荷ができるよう指導を強化していきたい」と話す。(柑橘果樹課) (経済部・牧野めぐみ)

③記事中のグラフ(県内産ミカンの取扱量と平均単価)では、ミカンの「取扱量」が少ない時には、「平均単価」が上がる傾向がみられる。その理由を次の2つの用語を使って40字以内で説明しなさい(句読点を含む)。使用する用語 >>> 需要 供給

年 組 名前